

僕らは足りない

作／山田志穂

へ登場人物へ

東 アズマ
西 ニシ

田舎町。学校、住宅、廃れた商店街、細い道路や坂道が狭いエリアに密集している。人口が少なく静かな地域。

その一角にある空き店舗。の外。

東、店の前に駆け込んでくる。

その後ろを歩いてくる西。片手に一泊分の荷物を持っている。

東、店の外から店内をきよろきよろと観察しながら、

て知れてるって。

東 ポカリとかアイスも買うとったぞ。

西 そんなのどれも似たような価格帯だろ。

東 あー！お前東京行って金銭感覚おかしなつとる！

西 なんだそれ。東京関係ねえよ。

東 いや、ある！あの頃を思い出せ。五円

チョコとうまい棒三本で空腹満たして俺らに百円越えのアイスは超高級な贅沢品やったやろ。

西 五円チョコなんか買ってたか。

東 うるさいな。ええねん細かいことは。

西 五円あったらヤッター麺買ってたな俺は。

東 ヤッター麺は十円やで。

西 あ？そだっけ。

東 はー。嫌やわーこれやから東京モンは。

西 どんだけ東京嫌いなんだよ。

東 裏切りもんが！

西 お前も県外組だろ。

東 大阪は近所やもん。セーフ。

西 全然近所じゃねえよ…

東 西日本はみんな近所やねん。覚えとき。

西 にめちやくちや金落としとったやん！

西 金って…高校生が買える駄菓子代なん

東 えっ！えっ？マジ！？

西 うん。

東 うわー！シヨックやわー！俺めっちゃ

好きやったんにこー！え？いつ？

西 五、六年前らしい。

東 うそやん！繁盛しとったやん。なんで？

西 さあ。俺も昨日知ったから。

東 えっ、だつてだつて、俺ら毎日活帰り

西 金って…高校生が買える駄菓子代なん

西、こみ上げる違和感を抑えきれず、

西 あのさ。お前のために言っとくけど。

東 えっ。何。

西 お前の関西弁、多分間違ってるぞ。

東 ……うっそ。

西 ほんと。変。

東 嘘やん！関西人みんなこんなやぞ。

西 そんなやんやん言わないだろ。ネイティブに怒られるぞ。

東 んなこと言ったらお前かって一緒や！

なんやねんその東京弁。

西 なんだよ。標準語だろ。

東 なーにが「標準語」だろ。(真似)「や。たった十年で都会に染まりやがって。「だろ」ってお前スカして、

無視して行こうとする西。

東 おいおいおい待て待て待て。

西 何。

東 何ってお前、十一時の電車乗るんやろ。

あと一時間もあるやん。

西 早めに行って切符買いたいから。

東 そもそも今日土曜やぞ。仕事月曜からやる。なんでそんな早よ帰んねん。

西 早めに戻って月曜に備えたいから。

東 なんや早めに早めになって。どうせ早く帰ってもやることないやろ。

西 はいはい。ないない。(行こうとする)

東 あーあー！分かった分かった！

東、無駄に大きな声と動きで西の行く手を阻む。

東 切符な、切符やろ！切符！

西 あ？

東 (ポケットをぐそぐそしながら)あんな、今日お前に会うってなったからちゃんと用意しとったんや。

西 え…マジ？切符？わざわざ？

東 感謝しろや。

西 うっわ、マジかよ！ありが

東、カード状のものを差し出す。

西、受け取りフリーズ。

西 え？何これ。

東 蒲焼さん太郎やん。知らんか。

西 (太郎を返し)行くわ。

東 なんで！焼肉さん太郎もあるぞ！あつ、ほら！のし梅さん太郎も！酸っぱくて旨、

西 (無視して行く)

東 (力で引き戻し)ちよいちよいちよい！分かった！分かったから！

西 ……もう。何だよ。

東 あのな。俺には大事な任務があるんや。

西 俺にもあるわ。

東 なんや。

西 早めに駅に行き切符と缶コーヒーを買って余裕をもって電車に乗り好きな本を読みながらゆつくりと東京に帰る。ほら忙しい。

東 お前は知りたくないんか。この店の真相を。

西 真相って別に…経営不振とか後継ぎがないとかそんなことじゃないの。

東 いや。ええかニッシー。

西 なんだよそのあだ名。気持ち悪い。

愛おしそうに店を見つめる東。

東 ここは貧乏高校生の放課後。パラダイス

「ばばや」やぞ。

西 ああ…そういえばそう呼んでたな。

東 その名の由来である中村のばばあを覚えて
えとるか。

西 あの人しかいなかったからな。

東 あれを見る。ほらあれ。

東、店内を指さす。西も一緒に覗き込む。

東 一つもあの角の丸椅子座って微動だ
にせず。

西 うわ、すげえな。まだあるんだあの椅子。

東 ほんで一つもクロスワード。パズルや
つとった。

西 暇だったんだろな。

東 ドハマリしたんやろな。途中から専門雑

誌買うとつたもんな。

西 懸賞付きのやつな。

東 「おばちゃんはな、景品が欲しいんでな

いよ。勉強して解けるようになってくのが
楽しいんやからな。あんたらも勉強頑張ら
なあかんで」つて言つとつた。

西 しつかり毎月応募してたけどな。

東 あと挨拶を怠るとめちやくちや怒られ
た。

西 ああー。すごかったな。

東 俺一回めちやくちやキレられてチョコ
バット投げられたことあるわ。

西 機嫌悪い時は箱ごと投げてきたよな。

東 「もつかい高校入学からやり直せえ！」
つて言われたこともある。

西 あー、俺そん時一緒にいたわ。

東 あ、高校からでいいんやつて思った。

西 確かに。普通は小学校からやり直させて
言うよな。

東 やんなあ。

と、笑う二人。

東 な。そんな数々の伝説を残してきたあの
ばばあが、あんなに元気だったばばあがよ、

たった十年ぼちでくたばると思うか。

西 十年は長いつて。あの頃で結構良い歳だ
つたしな。もう相当おばあちゃんだろ。

東 つつても辞めることはないと思うんや
けどなあ…

西 まあな。あの人なら死ぬまで店やるつて
言いそうだな。

東 おい。不吉なこと言うなや。

西 いや死んだとは言つてねえよ。けど。経
営がどうかそんなことでやめるとは思
えん。

東 やんなあ…

西 うん。

それぞれ考えを巡らせている間。

東 よし。確かめよう。

西 どうやつて。

東 家主の帰りを待つ。

西 えー。誰も住んでないんじゃないの。

東 それなら、誰か通るのを待つ。

西 この田舎で？無謀すぎるだろ。

東 ええやん。電車の時間までちよつとだべ

りながら待つところや。久しぶりなんやし。

西 ー、

東 昨日も席遠くて全然喋つとらんやん。な。

まんざらでもない西。腕時計を見て、

西 じゃあ三十分までな。

東 おお！よっしゃ！さあ食べ(焼肉さん太郎を差し出す)

西 俺いいわ。それ硬くて食にくい。

東 なんや。旨いのに。

二人それぞれ待機の姿勢となる。

東、焼肉さん太郎を噛みちぎりながら、

東 お前、昨日、井上さんと喋ったん？

西 いや。

東 喋つとらんの。

西 うん。

東 はあ？なんで？

西 別に。喋ることないし。

東 ないわけあるか。高校ん時の元カノなんて天然記念物やろ。

西 あ？

東 お前みたいなやつには分からんやろう

けどな、俺らこっち側の人間にとっては高校で彼女できるとかまじで夢みたいに出

来事やからな。

西 へえ。

東 しかも「卒業十周年」の「同窓会」なん

てもう、最っ高のシチュエーションやん！

西 そうか？

東 蘇る青春の一ページ。甘酸っぱい思い出。

心も体も大人になった俺たち。完璧な舞台設定やんか。あの頃を振り返って笑い合う

二人。今まで何してたん？とか今彼氏おる

ん？とか、あの時ほんまはどう思ってた

ん？とか。いろいろ聞くことあるやろ普通。

西 別に。

東 おま：冷めてんなあ。

西 かもな。

東 井上さん綺麗なつとったなあ。

西 うん。

東 おい。見とるやんけちやつかり。

西 それは。見るだろ普通。

東 まだ指輪してなかった。

西 よく見てんな。何。お前井上さんのこと

好きだったの。

驚きの表情を返す東。

西 なんだよその顔。

東 嫌なやつやなー！

西 え？

東 友達の好きな人と付き合ってたからって。ちよつと優越感浸つとんやろ。

西 はは。ないない。もう大昔の話だろ。

東 時間なんて関係ない！知らんやつならええけどな、よりによっていつつも一緒

におる友達に好きな子取られてみ。えぐいで。

西 えぐい。

東 その悲しみは今も俺の胸の中にしつかりと根を張つとる…

西 重い重い。

東 大切な幼馴染の失恋をいたわる気はないんか。

西、わざとらしくかしまり

西 ごめんな。お前の好きな人と付き合っ
て。しかも！告られて。

東 ー！（声にならない声）

西 はは。

東 バーカバーカ！もういい！俺の心の傷
をえぐってくれるな！

西 はいはい。悪かったよ。

話すことがない時間。

東、今度のはのし梅さん太郎に手を付け、

東 俺な。井上さんと選択授業一緒やってん。

西 傷えぐるなあ。

東 高二の選択な。美術。一緒やってん。

西 あれ。俺も一緒だったけど。美術。

東 知つとるわ。この話にお前は出てこんで
ええねん。

西 あ、そう。

東 美術室の机ってちょっと特殊やったや
ろ。

西 そうだっけ。

東 横長の。二人分くつついとって、隣の人

と微妙に距離近なるんやけどな。あれで俺、
井上さんの隣なつたことあんねん。

西 ほう。

東 美術の授業ってほとんど個人作業やん。
あん時の先生テキストやったから課題出
したらすぐいなくなつて、ほとんど自由時
間やろ。

西 うん。

東 この時間に井上さんとめっちゃ仲良
なつたろって俺もう、めっちゃテンション上
がって。美術ある日の朝めっちゃ自分の匂
いとかチェックしたわ。

西 ほー。恋してんな。

東 井上さんがこれまた良い匂いすんねん
なあー！女の子ってなんであんな良い匂
いするんやろ。なあ！

西 シャンプー？

東 かなあ。なんか服の匂いなんかもしらん
し、香水とか付けとつたんかもしらんし、
とにかく、もう、井上さんを鼻の穴で感じ
とつたわあ。

西 キモ。

東 ちなみにそんな時、井上さんの後ろはお前

やつたわけやけど。

西 お。俺出てきた。

東 ほんで井上さんはいつつもお前の方ば
つか向いとつたわけで。ちつとも前向かん。

西 ああ…

東 結局。勇気を出して、やつとの思いで話
しかけたんがムンクの件や。

西 ムンクの件。

東 ただな。そこは触れんといってくれ。めち
やくちやおもろいと思つて喋つてんけど
死ぬほどスベつてん。

西 はあ。

東 違う。井上さんは悪くない。俺と井上さ
んの笑いのツボが違いすぎただけなんや。
俺らは生まれた時から、結ばれない運命
やつたんやなあ。

何も返さない西。

東 ええで。そんな気使つてくれんでも。

西 え。大丈夫。使つてない。

東 もう昔の話やから。今はええ思い出やね
ん。俺立ち直つてるから。心配せんといて。

西 心配してない。

東 むしろ俺は今、彼女が幸せならそれでいい。うん。

西 そういや子どもできたつつつたな。

東 うん。そうか。

西 二人目。

東 そうか。うん。二人、へえ。つておいしい！

全身を使ってツッコむ東。空気が止まる。

西 …ほお。これが関西人のノリツッコミか。

東 ふ、ふ…二人目!?

西 うん。

東 指輪してなかったで!?

西 知らない人もいるでしょ。いくらでも。

東、分かりやすく項垂れる。

西 そんな凹むなって。

東 …

西 いや別に俺は嫌いじゃなかったよ。お前のノリツッコミ。ちよつとどう返していいか分からなかっただけで、

東 凹んでるのそこちゃうわ!

西 あれ。

東 井上さん!

西 あ、そっち。

東 てかなんやねんお前! うそつき!

西 え?なんで。

東 やっぱし昨日井上さんと喋つとったん

やないか!

西 いや喋つてねえよ。

東 じゃなんで二人目できたとか知ってん

ねん!

西 飲み会終わった後LINE来たから。ち

よつとやりとりしただけ。

東、衝撃を受け、

東 LINE「来た」…?

西 いや。ただの近況報告だつて。

東 …ぐつ。(悔しさをかみしめる音)

西 ええ。なんだよ。

東 差を感じる…

西 LINEくらいで。

東 くらいって!俺は井上さんとながっ

てすらないんやぞ!

西 昨日聞けばよかったじゃん。

東 だって聞いたら気あるんバレバレやろ。

西 別にいいだろ。気あるんだから。

東 良くねえわ。井上さんの身にもなつてみや。俺みたいなやつに好かれてるなんて知ったら井上さん引いてまう。かわいそう。

西 引かねえよ。井上さんはそんな子じゃ、

東 はつ。お前はええよな。人生楽勝で。

西、止まる。

西 …は?

東 だつてそうやろ。顔良しスタイル良しフアッション良し。高校ん時かって、勉強も部活も簡単に良い成績出したつたやんか。いっつも彼女おつたしよ。ほんで東京のかい大学行ってそのまま大企業就職して。勝ち組やん。どうせ今もかわいい彼女と同居とかしとるんやろ。

西 …してねえよ。

東 人生イージーモードやんな。俺もお前みたいになつたわ。

西 ……んだよ。

東 あ？

西 なんだよそれ！

突然の大きな声に東、目を見張る。

西、抑えていたものが堰を切ったように溢れ出る。

西 何がイージーモードだよ！何が人生楽

勝だよ！まるで俺が何も努力せずこま

で来たみたいなこと言うんじゃないよ！

俺だってな、ずっと一杯一杯なんだよ！余

裕ねえんだよ！寝る時間削って遊ぶ時間

削ってなんとか食いついてきたんだよ。な

のにこのザマだよ！大企業がなんだよち

つとも楽しくねえよ！なんだよやりがい

って！なんだよ仲間って！周りのやつら

みんな死ねばいいって思ってるけど言え

ないし辞められないから面白くもないの

に笑ってやり過ごしてんだよ！彼女がな

えよ助けてくれよ！何も知らないくせに

勝手なことばっか言うんじゃないよ！

言い切り、肩で息をする西。

東、西の迫力に圧倒され動けないでいる。

その様子に気付いて我に返る西。ばつが

悪そうに東に背を向ける。

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

西 違うって…

東 俺、自分に自信がないねん。見た目もあ

れやし、アホやし。おもしろいこと言おう

としても滑るし、ええとこなしで…この歳

まで彼女できんのもなんか、いよいよ笑え

るっつかさ、はは。いや笑えんのやけど。

特に返さない西。

お前のこと羨ましかったんや。高校ん時

からずっと。妬んどったんやわ。別に俺が

しよぼいのはお前のせいちゃうのに。人の

せいにして努力を怠ったんやな…

西、少し考え、

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

………ニッシー？

西 いや、本当に…羨ましいんだよ。

西、打ち明ける。

西 ずつととき、

東 …おう。

西 職場の上司に言われたことがずっと引

つかかっててさ。

東 何。

西 「西くんは余裕ありそうだから」って。

決まり文句みたいにそればかりでさ。次から次へと新しい仕事振ってきて。

東 うん。

西 俺、全然余裕なんてないんだよ。がつつり集中しないと自分の仕事ちゃんとか

せないし、なんか一個でもトラブル入ると

思考停止して動けなくなるしき。失敗する

んじゃないかって毎日不安で仕方ない。だから少しでもそれ解消しようと思って、仕

事術とかタイムマネジメントの本とかめ

ちゃくちや読みまくって勉強して、やっと、なんとか、余白の時間作れるようになってきてさ、

東 すぎえな…

西 なのに、それを「余裕ある」ってどんどん仕事増やされる。せつかく一人前にできるようにセッティングしたのにまた組み

なおさなきやいけなくなんだよ。余裕ないから努力してんのにさ。

東 うん。

西 俺の何を見て余裕あるとか言ってるんだよ。他のやつらと仕事量の比較でもした

のかな。残業してるやつは「忙しそうだから」って仕事減らされて。俺はどれだけ努

力しても「余裕だね」って仕事増やされる。給料変わらな。あほらし。くだらねえよ

マジで。

東 せやなあ…

西、重くなった空気を変えようと無理に

明るく振る舞い、

西 俺さ、昔からこうなんだわ。

東 …

西 子どもん時からずっとこう。体育の長距

離とかもさ。全力で走ってるのに「何涼しい顔してんだ」って、無駄に外周増やされ

たり。

東 ああ…確かに。お前はいつもサラっとこなしとるように見えとったな。

西 全然サラっとこなしてねえのによ。精一杯やってるのに。なんか手抜いてるよう

に見えるらしい。

東 勉強も？

西 うん。空き時間全部費やしてやっ平均。あとは寝る時間削るしかない。

東 やからお前ずっと寝とったんか！こんだけ寝とんのにいつも学年上位やから

ただの天才やと思っとったわ！

西 今思えば悪循環だけだな。

東 ほんまやな。

西 いろいろ上手いかねえんだよ。井上さ

んのもそうかわ。俺がフラれたし。

東 えっ！そうなん！？

西 うん。

東 卒業して遠距離なるから別れましよう

ねって話ついたらんやないんか？

西 いや。

東 したら、なんで。

西 好かれてる気がしないって言われて。

東 え。

西 「私のこと好きじゃないんでしょ」って。まあ。そんなようなこと。

東 好きじゃなかったん。

西 好きだったよ。

東 なら。そう言えばよかったやん。

西 言ったよ。付き合ってる時も言ってたよ。

俺なりに。

東 なら、

西 けど。伝わらなかった。伝わってなかった。冷めてるように見えてたんだろうな。

東、返す言葉を探している。

西 だからお前が羨ましい。

東 だからって。

西 お前みたいに、まっすぐで素直で何にも考えてないみたいに分かりやすかったら、

東 おい。ちよつとけなしとるやろ。

西 褒めてんだって。後のこととか周りのこととかなんにも気にせず「好きだ！」っ

て。お前なら言えたと思う。

東 なんか…

西 ん。

東 いや、ええんやけど。めちやくちや馬鹿っぽいなそいつ。

西、拍子抜けして笑う。東も笑う。

東 で、井上さんとはどこまでいったん。

西 は？

東 え？だから、

西 いや聞こえたけど。この流れで聞く？

東 なんて。なんもおかしいことないやろ。井上さんの話シリーズやん。

西 ええ…

東 なあ。言えや。どこまでいったん。A？

B？C？

西 なにそれ。

東 あの頃女子がよく言うとしたやろ。AがチューでBがタッチで、Cが、んふふ。

西 なんでそんなことだけ詳しいんだよ。

東 イケてない男子グループの情報網なめんなよ。

西 どれもしてないよ。

東 え！？Aも？

西 ないって。

東 高校生やのに？

西 お前の高校生イメージどんななんだよ。

東 だってだって、公式にチューしていい相手なんやぞ？ほんで思春期の高校生なんかエロいことしか考えてないやん！デートしよかってなったらお前、デート中ずつとチューするに決まっとるやろ！なあ！

異常に興奮している東。西、ちよつと引きながら、

西 知らねえよ…そもそもデートすらほとんどしてないし。

東 エー！勿体ねー！

西 うるさいな…

東 ほんでも！たまには、ほら！二人でプリクラ撮ったりオシャレなカフェで茶しば

いたりしとったわけやんな？

西 んなもんねえだろ、この町に。

東 へ？じゃ何！誰！どれ！デート！

西 落ち着け。

東 どこ！ねえ！どこ！？

西 どこって…

西、店を見る。

東 え…？まさか、ここ？

西 悪いかよ。

東 だってこんなみすぼらしい、

西 失礼だろ。ばばあに謝れ。

東 いやいや！俺らはええとしても、彼女連れてデートで来る場所やないぞここは。

西 学校から近いから。

東 ア、なるほどな。放課後デートは学校に

近い駄菓子屋に限る！ってなるかアホ！

西 おお。今のは割と良いよ。ノリツツコミ。

東 んなことどーでもええねん！せめてどつちかの家遊びに行くとかせえよ！

西 いや。だから。家。

東 あん？

西 井上さん。ばばあの孫。ここ、井上さんのばあちゃんち。

東、フリーズ。

東 はあ？なんやその新事実！

西 言ってなかったっけ。

東 知らんわ！今初めて聞いたわ。

西 だから時々二人で学校帰りにここ寄って、奥の広間で一緒に勉強したりしてたんだよ。

東 なんやそれ…

西 ばばあ。井上さんには優しくてさ。まあ孫だから当然か。

東、何か忘れてているような気がする。

西 「あんたら好きなお菓子いくらでも持っていき」って言ってくれてさ。だからって

わけじゃないけど、俺この時間結構好きで、

思い出す。

東 おい！

西 うわ。何びっくりした。

東 お前！なんでそれ早よ言わんねん！

西 え、何が。

東 井上さん！ばばあの孫なんやろ！

西 だからそう言ってるじゃん。

東 なら井上さんに聞けば分かるやろ！ばばあの今！店の真相！

西、「あ。」となる。

東 やろ！？

西 ほんとだ。忘れてた。

東 かー！お前ってやつは！そーゆーところがイマイチっつーか隙があるっつーか、このマヌケがいちいち女の子の母性本能を

くすぐるんやなコノヤロー！

西 ごめん何の話？

東 こっちの話や！ええから早よ電話せえ。

井上さんに。

西 え。マジ？

東 おお。電話してばばあのこと聞け。んで伝える。

西 何を。

東 ああの時の気持ちに決まっとうろうが！

西 は？何言ってるの。そんなの今更、

東 今更もくそもあるか。

西 あるだろ。十年も前のこと、

東 時間なんて関係ない！お前は井上さん

のことちゃんと好きやったのに、井上さんはそれ知らんままお前と別れたんやぞ。ほんで今も知らんまま生きとんやぞ。それでええんか！

西 だからって今それ言っただうなんだ

よ！どうにもなんねえだろ。井上さんは井上さんで今は幸せに暮らしてんだから、

東 井上さんの今なんてどーでもええ！

西 はあ？

東 俺が言いたいのはそのなことちゃうねん。大事なんはな。お前が自分の気持ち、ちゃんと言えたって胸張れるようになることやろ！

西、返さないが受け止めている。

東 お前さつき俺のこと羨ましい言うたよな。なら一回くらい自分変えてみろや。まっすぐで素直で何にも考えてなくて分かりやすいアホな男になってみろや。ほんで

一皮むけて東京戻ってな、職場の上司に言うてやれ。

西 …何を。

東 「余裕なんか一ミリもねえわ！お前のは節穴かこの無能上司が！もつと周り見やがれ！俺にばっか次から次へと仕事振ってくんない！人の努力も気持ちも分かんねえくせに俺より高い給料もらってんじやねえ！お前なんか、お前なんか………バーカバーカ！」ってな！

西、吹き出す。

東 な？な？ええやろ。

西 お前、語彙力なさすぎ。

東 はっ。ほっとけバーカ。

笑う二人。

西 いいの？

東 あ？

西 井上さん。お前まだ好きなんだろ。

東 ええよもう。昔のことやし未練はない。

なんかお前と話しとったらどーでもよくなってきたわ。

西 そうか。

東 おう。

西 分かった。

東 けど、

西 ん？

東 もし…

東、言い淀み、考え、意を決して

東 もし、良かったら、俺が井上さんとLINEしたがつとるって伝えてくれんか。

西 未練？

東 違う。俺も好きやったって伝えたい。

西 うん。

東 ほんで、友達になってくれって言う。

西 ああ。いいな。それ。

東 そうか？

西 いいよ。めちゃくちゃいい。

東 そうかな。

西 うん。井上さんならきつと喜ぶ。

東 …そうやな。井上さん良い子やしな。

西 上手くいったら…三人で飲もう。

東 おお！それええな！

西 うん。今夜。

東 今夜？

西 うん。

東 マジ？

西 マジマジ。空いてるか。

東 そりゃ俺は空いてるけど、お前、東京帰

らんでええんか？

西 いいよ。今日土曜だから。

東 けど、帰って月曜に（備えないと）

西 いいよ。どうせ帰ってもやることないか

らな。

東 はは。

西 な。だからいいだろ。

東、頷く。

西 よし。じゃあ。

東 お、おう。

スマホを取り出す西。操作し、電話をかけ、相手が出るのを待つ。

東 緊張する…！

西 はは。なんでお前が緊張すんだよ。

東 だってそれはお前、

西 あっ…もしもし？

つながった。口をつぐむ東。西の電話に

自分の耳も近づけてみる（が、まともに

聞こえていない様子）

西 おはよう。昨日はおつかれ。…：…うん。

ごめん急に電話して。今ちよつといい？…

うん。…：…あ、そうか。うん。いや実は

ちよつと教えてほしいんだけどさ…

と、西が電話をしている間、東が遠くに

何かを見つけて目を細める。

やがて二人の目の前を通り過ぎて行く

それ。目で追う東。途中で何かに気づい

てハッと、それを追って消える。

（西は東が居なくなっていることに気づいていない）

西 うん。そうそう。でさ、今ちよつど東と

一緒にばばやの前にいるんだけど、閉まっ

てるだろ。ばばあ元気なのかなって話して

て…：…うん…：…うん…：…

西の表情が変わる。

西 …：…え？

そこに東がいると思って振り返り、

西 おい！ばばあ…あれ、東？

電話を耳から離し、東を探す。

と、そこに西、全力疾走で戻ってきて、

東 おい！ばばあ、

西 （同時に）生きてるって！

東 （同時に）生きてたで！！

二人、顔を見合わせて

西 え？

東 生きてる！生きてた！

西 え？え？

東 見たんや！今！通ったやろ！花柄のハ

イエース！

西 デイホームの車？

東 そうそう！通った時にな、なんか見たこ

とある人乗つとんなあつて思つてん！ん

でよくよく見たらそれ、ばばあやつてん！

西 マジかよ！

東 久しぶりにこんな走ったわ。したら停ま
つてくれてよ、

西 え、じゃあ何！お前ばばあと(喋ったの)

東 けどな。ばばあボケとつた。

西 えっ

東 認知症らしい。職員の人が言うとつた。

あからさまに勢いが弱まる西。

東 けどな。けどな。ボケたけど、店のこと

も何にも覚えとらんけど、体はめちやくち

や元気で毎日笑つとるって。職員さんら

の仕事手伝ったり、施設の中で新しい友達

できたりして楽しそうにやつとるって！

西 そうか…！

東 今でも毎日クロスワードパズルやつと

るらしいで！

西 うわ、変わらんな！

二人、笑う。

西 良かった。ばばあ。楽しくやつてんだな。

東 おう！俺は嬉しいで！ばばあ生きてて

くれて。幸せで。

西 そうだな！

東 ほんま良かったな！一件落着。

なんか良い感じの空気が流れる。

東 ところで、井上さんは。

西、「あ。」となり、慌てて電話に戻る。

東 お前ほんまマヌケやな…

西 ごめん井上さん！今…あ、うん。そう

そう今の声、東…はは。全部聞こえ

てたか。無駄に声でかいからな、こいつ。

東、「おい」と反応し、西の隣で待機の
姿勢。蒲焼さん太郎を取り出す。

西 うん、ばばあデイホーム行つてんだな。

良かったよ生きてて。うん…そつか。…
うん。でさ。

蒲焼さん太郎を噛みちぎる東。

西 俺ら、井上に伝えたいことがあつてさ。

(幕)